

参加者、

浅田、石川、市ノ川、岡部、河原、
北島、神前、鈴木、田中、鳥羽、
鳴、並木、山岡、安田、吉野、
吉本、
お送り、岬、

Oct 28~29, '95

BMW RS Club

富士の裾野を巡り
三保の松原で一泊

かわらばん

一泊ツーリング特集号

企画担当。石川、鈴木、山岡、中島、

釜底に入って居たかのような暑さが過ぎ、秋の長雨も終わりになって、金木犀がその爽やかな薰りを辺りに広げ始めると、何か身の回りにも秋が満ち満ちて、いつの間にか関東地方にも紅葉の季節がやってきました。

年に一度の一泊ツーリングを控え、気になるのはお天気のことばかり。そこで何時もお世話になっている我が国のヤオヨロズの神様は勿論のこと、ホッテントットの神様からシャバンテス、そしてチグリスユウフラテスのずっと上流の方に住んで居られるという、スゴイ神様にまで願をかけ、地に伏し天を仰いでこの日の晴天をお願い致しました。

この願いが通じたか当日は幾らか雲が多いものの、見事な晴天に恵まれました。

天気は良しシーズン的にも絶好の行楽日和で、その上に第四土曜日でガキンチョの学校が休みとあり、早朝の首都高速に乗り入れると、早くも渋滞情報が所々に出され、車の間をぬうようにして、集合場所の中央高速／談合坂SAに7時40分に滑り込みました。

酒飲みの多いクラブですので、少しきはクラブ費を浮かそうと思い、酒パックを三升とウイスキーを一本揃えた為に、近くの安田さんに応援を頼んで彼のバッグに入れて貰い、2台と一緒に走りました。右のバッグに入れたので山の中では右の方には良く曲がったそうです。

さて集合状況は至って悪く、後からメンバーの言い訳を聞くと、早くに目が覚め（なんだ小学生の遠足と同じだ）、充分に時間をみながら家を出たそうですが、それでも遅刻者が続出で、出発を小半時ばかり遅らせました。結局は8時半の旅立ちです。

晴天ながら風の冷たい朝でした。しかしながら心は浮き立ち「いい日旅立ち」や中央高速を走ると思い出す、「狩人」が歌う“あずさ2号”の♪私は“あずさ2号”であなたの元へと旅立ちます～♪というメロディーが口をついで出て来ます。

少し早いかなと思いながらも、今年初めて冬用の革ジャンパーを着て来ましたが、小仏トンネルを抜けると一際冷え込み、南アルプスがやや霞んで見え始めた頃には、久々にグリップヒーターのスイッチを入れた程でした。

この冷え込みで周囲の木々の葉が色づき始めましたが、常緑樹の多いこの辺りでは前回の「湯の小屋林道」から尾瀬方面へのあの見事な紅葉は望みえず、僅かにケヤキや杉の木がその葉先をセピア色に変えていました。

高速を勝沼ICで降り、いよいよ石川さんが二度の下見で案を練ったというコースの始まりです。ここで午後から結婚式があるという中野さんが、Uターンをして帰って行きました。

今を盛りと枝もたわわに実をつけたブドウ園を右に左に見ながら走り抜け、更に桃の畠を抜けましたが、木にはまだ桃の紙袋が残り、遠くから見ると白い鳥がとまって居るかのようです。金川曾根広域農道を走り、市川大門から山道に入ると、大きな木には秋になると真っ赤に色づく筈のツタウルシが絡み付いていましたが、まだ幾らか黄色くなった程度でした。

更に「印鑑の郷」として名高い六郷町を抜け、武田信玄の隠し湯として有名な下部温泉を左に見ながら、富士川の支流の常葉川に沿って下り、身延線の身延駅前に到着しました。

「駐車禁止」の場所にズラリ～とバイクを並べ、早速に便所をお借りしましたが、次々と電車が止まる度に善男善女が大勢降りてきて、身延山へ行くバスを待って並んでいます。

おりからの晴天の中で遙か彼方に日蓮宗總本山「身延山久遠寺」のお山が見えていました。

そんな中で前日に塗装が終わり、遅くなつて組み上がったという並木さんの黄金色に輝くバイクが、出来立ての観音像のように光り、何か場所を得たかのように感じたのは私だけでしょうか。

この辺りは道路拡張中で、立ち退きで金が入ったとみえて（一寸ばかりひがんでいるようですが）来る度に新しいお店が増えて、昔の鄙びた（ひなびた）良さが段々と影を潜めています。身延駅の駅舎をバックにハイ！ ポーズと写真を写しました。

一度止まると長くなり、石川さんがその度に食事の予約時間を使っています。南部町から芝川へ走り継ぎ、更に「白糸の滝」への道を進むと、よくテレビなどで見るよう、家の前で女の人が野菜を洗っている疎水が流れ、近くの藁葺き屋根と見事なコントラストを醸し（かもし）出していました。